

## ◎基本情報

事務事業名	心身障害者等無料バス優待事業			担当部署	健康福祉部 社会福祉課	
総合計画体系				根拠法令計画など	鳴門市高齢者等無料バス優待券の交付等に関する条例、鳴門市高齢者等無料バス優待券の交付等に関する条例施行規則	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがい感じるまちづくり			事業期間	開始 昭和 49 年度 終期 未定
政策(中項目)	1	ひとにやさしく健康で安らげるまち なると				
(小項目)		障がい者福祉				
施策	5	障がい者福祉の推進				
基本事業	3	生活環境の整備充実				

## ◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理						
		身体障害者手帳(1級から4級)、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかの交付を受けている70歳未満の者						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	市内のバス路線を利用する障がい者に対し、無料バス優待券を交付することにより、移動手段の確保、生活圏の拡大を図る。						
事業計画	28年度に何を計画していたか	市内のバス路線について、障がい者の移動手段を確保するため、バスの無料優待券を交付する。市内バス路線の全線において優待券の適用を継続実施。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
		鳴門市高齢者等無料バス券申請件数(障がい者対象分)	90	95	95	100	100	件

## ◎実施結果(DO)

事業実施内容	28年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	事業対象者となる障害者手帳交付者への案内通知に申請時の必要書類を記載するとともに、障害者手帳交付時にも手帳取得により利用できる福祉サービスとして情報提供し申請を促している。						
		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
活動指標	指標名	27年度実績	28年度実績	29年度目標	30年度目標	31年度目標	単位	
実施した事業の活動量を示す指標	1							
	2							
成果指標	鳴門市高齢者等無料バス券申請件数(障がい者対象分)	90	110	—	—	—	件	
対象にどのような効果があつたか示す指標	目標達成率(実績/目標)	115.8	—	—	—	—	%	
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況	計画どおり	(千円)				

財源内訳	年 度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額	0	0	0	0	1,312	1,312
平成28年度	決算額	補正予算額	0	0	0	0	24	24
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	1,336	1,336
		決算額	0	0	0	0	1,326	1,326
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(7,133千円/人)	臨時職員(2,043千円/人)		総人件費		総事業費	
		0.0	0.2		409		1,735	

【鳴門市行政評価】

【事務事業名：心身障害者等無料バス優待事業】

事業費推移	年 度	27年度決算	28年度決算	29年度	30年度	31年度
	事業費	1,314	1,326	1,337	1,337	1,337
	うち一般財源	1,314	1,326	1,337	1,337	1,337
	人件費	414	409	409	409	409
	総事業費	1,728	1,735	1,746	1,746	1,746

◎項目別評価(CHECK)

評価項目	評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった 障がい者の移動手段の確保、生活圏の拡大を図るとともに、経済的負担の軽減につながっている。
	効率性	A:効率的だった 事務負担と利用実態の把握の両面において効率的な運用がなされている。
②成果に対する評価	指標名	鳴門市高齢者等無料バス券申請件数(障がい者対象分)
	目標	95 件
	実績	110 件
	評価	A:目標を達成できた 障がい者の移動手段として有効。
③総合的な評価	A	市内バス路線全線での適用を実施できており、障がい者の移動手段の確保等の目的を達成できている。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	市内一部路線の廃止や減便などバス運行状況の変化が利便性に影響を及ぼす可能性があるが、移動手段として無料バス優待券を必要とする方がバス乗車できるよう案内を継続し迅速に対応する。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H29年度	障がい者が地域で安心していきいきと暮らすことができるよう、必要とする方の移動手段として利用促進する。			
	H30年度	継続実施。			